

東本願寺広島別院 六月二十五日に竣工式と還座式

三村松 内陣仏具一式を製作施工

東本願寺(真宗大谷派)広島別院明信院の竣工式と還座式(げんざしき)が六月二十五日に行われた。

東本願寺広島別院は本願寺第十二代教如上人(1558~1614)が毛利氏の庇護を受けて広島に滞り、帰京

に際して近江堅田出身の教智にこの寺を託したことが起源とされる。教智は自身の院号が「明信院」であったことから、寺号が明信院となった。

1647年(正保四)には本堂が再建され、1741年(寛保元)にも梁行七間半、桁行九間半

の本堂が再建され、1822年(文政五)には境内を拡張した。

戦前までは現在の広島市大手町にあったが原爆で焼失、1951年に市内宝町で木造平屋建ての本堂庫裏が再建され、長く参詣の場所となっていたが、2013年5月に建て替えが始まり、2014年2月に鉄骨二階建ての建物が完成。

一階には本堂と事務室、二階には十八畳のスペースを設けられた東本願寺広島別院は、別院であると同時に真宗大谷派山陽教区同朋会館としても使われ、山陽地区の道場として機能して行く。

□
ご本尊は別院建て直しのために市内比治山町法正寺に安置されていたが、六月二十五日の還座式で新しくなった別院本堂に安置された。

今回三村松は内陣の仏具一式を製作施工。「東本願寺広島別院さまへのお仏具ご納入を賜り、三村松の総力をもって誠心誠意製作させて頂きました。現場での木地合わせなど大変な作業もありましたが、無事納めることができました」と同社の三村邦雄社長は語る。



雅楽の演奏を先導に厳かに広島別院へ運び入れられる御本尊



新しくなった東本願寺広島別院
内陣仏具一式を三村松(広島)が製作施工